

加賀野菜

たけのこ

栽培マニュアル



【たけのこ】

科名・種類 イネ科・モウソウチク（マダケ属）

原産地 中国江南地方

主な産地 富樫、金城、内川、額、崎浦、森本

栽培の歴史

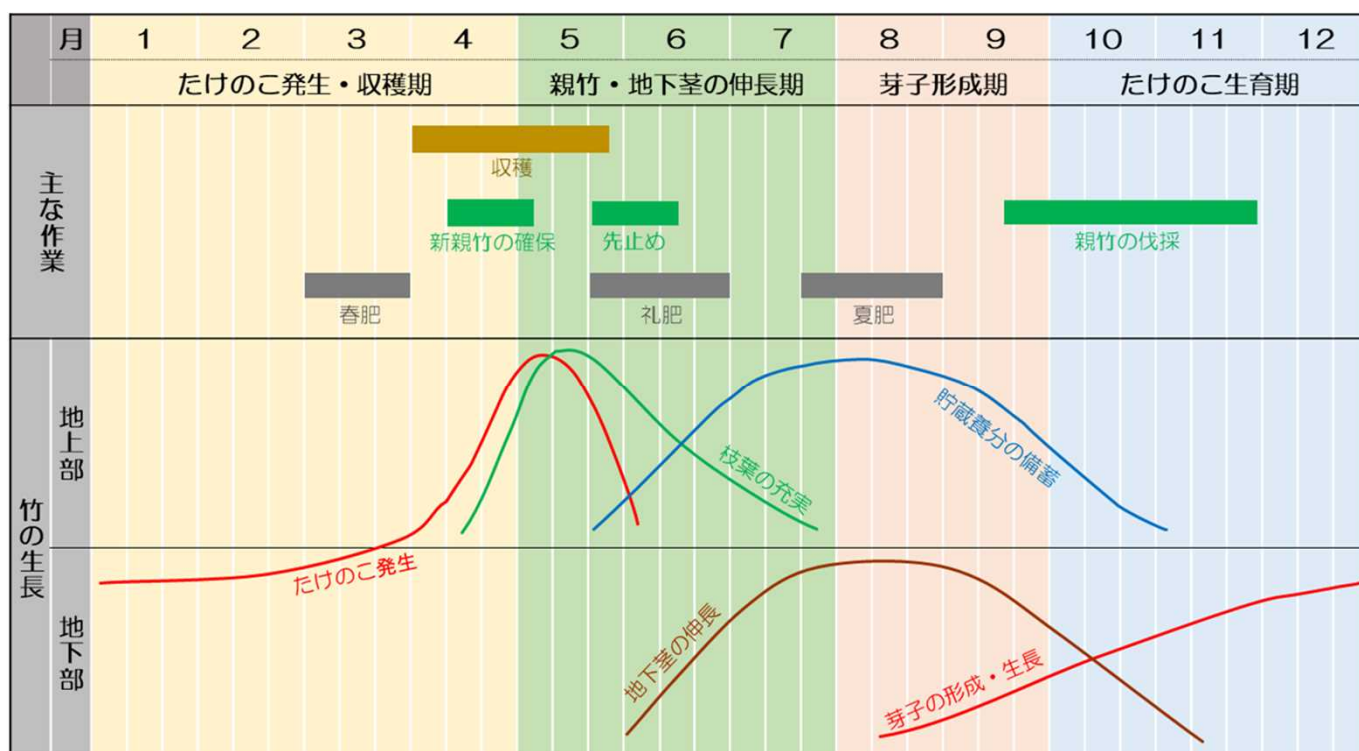
モウソウチクは江戸時代に鹿児島県に持ち込まれ、各地へ広がった。石川県では加賀藩の藩士が江戸より持ち帰り、保護育成したのが栽培の始まりといわれており、北限の産地とされる。毎年4月に「たけのこ感謝祭」が開かれ、生産者や関係者が集い、豊かな山の恵みに感謝を捧げている。

特性等

モウソウチクの竹は、高さ10〜15mに大きく生長し、発生するたけのこはタケ類の中で最も大きく、えぐみが少なく香りが良いため、日本人に好まれてきた。また、金沢産のたけのこは歯ごたえがあり、煮崩れしにくいともいわれる。栽培適地は、年平均気温が14〜16度、年降水量が2000mmを超える地域とされ、金沢市はこの条件に当てはまる。



栽培カレンダー



生育の経過

収穫盛期の5月頃から親竹の落葉が始まり、収穫の終わる頃にはほとんど新葉に入れ替わる。地下茎は6月上旬頃から伸長を始め、地下茎の各節には芽子（たけのこに生長する芽）が分化、着生する。夏頃から芽子の伸長肥大が始まり年内は生育が進み、地温5度以下になると停止する。翌春にたけのこととして地表に出る（発筍）のは、その内の20%程度である。

地下茎とたけのこ

- ・芽子が地上に伸びるとたけのこに生長し、地中に伸びると地下茎になる
- ・親竹を切る際の刺激で、芽子がたけのこになる性質がある



竹林の管理

【新親竹の確保】

- ・収穫最盛期の前に発生したたけのこの一部を残し、新親竹として生長させる。
- ・直径8〜10cmの中小径の竹を新親竹として選ぶことで、有利販売が期待される中小型たけのこ（0.5〜1.5kg）の生産を増やすことができる。
- ・毎年50〜60本/10aの新親竹を確保する。

【先止め】

- ・強風や積雪による倒伏防止などを目的に、新親竹の先を切る。
- ・枝が1〜2本出た時に、そこから18〜20節程度上の位置で、長い柄付きの鎌などで切る。または両手で揺すり、上部を振り落とし、長い。
- ・親竹が軽量化するので、伐採時の作業負担軽減にもつながる。

親竹更新のポイント

- ・親竹から伸びた地下茎は、たけのこの母胎となるが、生産力が高いのは4年生以下の若竹である
- ・親竹の適正本数は10aあたり250〜300本（約1坪に1本）で、4年生以下の若竹を揃えるため、毎年50〜60本を目安に更新する

先止めの重要性

- ・日射が地面に届くため地温が上がり、早春のたけのこの伸長と収穫開始が早くなる
- ・根張りが良くなり倒伏しにくくなる
- ・節数が少なくなるが、枝当たりの葉枚数が増えて樹冠が立体的になるため、光合成効率は向上する

【除草】

- ・雑草による肥料養分の競合を避け、管理しやすい竹林を維持するため、雑草の繁茂する夏に除草を行う。
 - ・除草剤を使用する場合は最新情報入手し、適用作物名「たけのこ」または「野菜類」で登録のあるものを選択するとともに、容器ラベルの記載事項を必ず確認して使用する。
 - ・除草剤の最新情報は、農林水産省「農薬コーナー」を参照する。
- URL: <http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/>

【施肥】

・春肥（3月上旬）

：発筍の約1か月前に施用し、たけのこの肥大を促進する。

・礼肥（5月下旬～6月）

：収穫後に消耗した栄養を回復させ、新葉の生長と活発な光合成を促す。

・夏肥（7月下旬～8月）

：地下茎を充実させ、翌春のたけのこになる芽子を増やす。



肥料の散布

珪酸成分

- ・珪酸 (Si) は、イネ科作物に多く含まれる重要な成分である
- ・稈や葉が丈夫になり、倒伏しにくく、病虫害が減り、根の働きが活発になるなどの効果がある

施肥設計（例）

(kg/10a)

肥料名	総量	3月	5～6月	7～8月	成分量
		春肥	礼肥	夏肥	
たけのこ1号	180	20	80	80	N : 32.0
BBたけのこ一発	100		100		P ₂ O ₅ : 15.8
硫安	20	20			K ₂ O : 37.6
珪酸加里	80		40	40	Si : 38.0

【親竹伐採】

・春に新親竹を生長させ、秋に古い親竹を伐採することにより、竹林を更新する。

・9～11月に、生産量の落ちる5年生以上の古竹、枯れ竹、被圧竹などを、毎年50～60本/10aを目安に切る。

・古竹の見分け方は、発生から年数が経過すると、竹の節部分に黒色の斑点が増え、5年以上経つと地際に褐色の斑紋が増えることから判断できる。

・親竹に、目線の高さで発生年を書いておくと、更新時期が分かりやすい。



倒れる方向を確認して古竹を伐採する



伐採後の竹は搬出して、生垣、農業用資材、竹加工品などに活用する

2 収穫



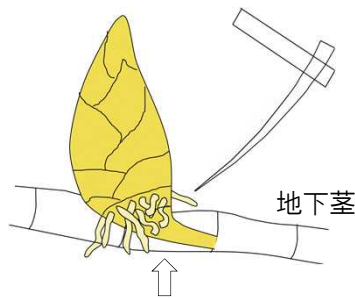
収穫専用のクワ
(通称：トンガ)



地割れを探し、たけのこの周囲から掘って根元を確認する



地下茎との接合部に刃をあてて切り、こじ上げる



地下茎との接合部

- ・ 柔らかくえぐみのない良質なたけのこを収穫するため、地上に出る前の地割れを探して掘り出す(地割れ掘り)。
- ・ 小さいうちに掘ること、次のたけのこの発生が促進される。
- ・ たけのこの曲がりの内側の根元にクワをあてて、地下茎の付け根から切り離し、こじ上げる。
- ・ 収穫時に地下茎を傷付けると、そこから先に発生するたけのこが小さくなるので注意する。
- ・ 収穫物は、こもを掛けるなどして乾燥を防ぎ、衝撃を与えないよう注意して運搬する。

3 調整・出荷



出荷箱内にフィルム袋を広げ、吸水シートを敷き、たけのこを並べる



箱詰め前の調整作業



蓄冷剤を入れて鮮度を保持する



赤芽1~2節程度を残して切る

- ・ 赤芽1~2節程度を残して、平滑に根を切り取る(根切り)。この時、欠けたり、切り過ぎたりすると商品価値が下がるので注意する。
- ・ 等階級ごとに揃え、決められた本数で箱詰めする。
- ・ 出荷箱には蓄冷剤を入れ、鮮度を保つ。

加賀野菜「たけのこ」栽培マニュアル
発行 令和3年3月
発行元 金沢市
監修 金沢市農協筍部会
編集 金沢市農業センター
金沢市下安原町東1471
電話 (076)249-2744
FAX (076)249-4470

